

為末 大さんと木村 光伯さんからのメッセージ

400mハードル日本記録保持者／世界陸上2大会連続銅メダリスト

ためすえ だい
為末 大さん

『このたび柏崎市民大運動会の名誉顧問を拝命し、大変光栄に存じます。コロナ禍を乗り越え、再び地域の皆さまが集い、走り、笑い合える日を迎えられることに、心からの喜びを感じています。

ぱん食い競走は、スポーツのハードルを下げ、誰もが笑顔になれる機会を届けたいという思いで取り組んできました。足の速さより“食らいつき力”や“運の良さ”が勝負を分ける——そんな不思議な競技で、子どもも大人も一緒に本気で走り、笑いあえるのが魅力です。

また、現存する日本最古といわれる柏崎の公認陸上競技場を訪ねられることは、元陸上選手として大きな喜びです。柏崎の皆さんに心からの笑顔をお届けできる一日を楽しみにしております。』



あんぱんの元祖／株式会社木村屋總本店7代目代表取締役社長

きむら みつのり
木村 光伯さん

『このたび、柏崎市民大運動会の名誉顧問を拝命し、大変光栄に思っております。市民が主役となるこの運動会に、私もその一員として参加できることに、心からの喜びと期待を抱いております。

目玉競技として「ぱん食い競走」が実施されることに、私たちぱん食い競走協会としても、大きな誇りと喜びを感じております。

子どもが無邪気に笑いながらあんぱんをくわえてトップでゴールする。

本気を出した大人がそれに負けて、思わず苦笑いする。

勝っても負けても、観ていても参加しても、誰もが笑顔になれる。

そして、ゴールのあとに食べるあんぱんが、「おいしい！」と感動を呼ぶ。

そんな楽しくて、美味しくて、人と人との自然につながる——

それが「ぱん食い競走」の魅力です。

この競技は、年齢や性別、障害のあるなしといった垣根を越えて、誰もが気軽に楽しめる、まさに“誰ひとり取り残さないスポーツ”です。

また、競技で使われる“あんぱん”は、西洋のパンと日本の酒饅頭まんじゅうという異なる文化が出会い、融合して生まれたものです。この背景こそ、私たちが目指す多様性と



共生の象徴です。

私たちは、ぱん食い競走を通じて、人と人との垣根をなくし、地域のつながりを深め、そして貧困や孤立といった社会課題の解決に貢献する未来を描いていきたいと考えています。

柏崎の青空の下で、皆さんとともに笑い合える一日を心より楽しみにしております。

「おいしいスポーツで 世界が広がる」その第一歩を、柏崎から一緒に。』